

議長のお許しを得ましたので、私は、大項目1点
地球温暖化による影響への対応について伺っていきます。

地球温暖化については、未知数の部分が多いともいわれていますが、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）による地球温暖化に関する最新知見をまとめた第4次評価報告書によれば、人間活動に伴う温室効果ガスの増加によってもたらされた可能性が高い、と結論付けています。近年各地域で起こっている、洪水や旱魃、猛暑などの激しい気象現象は、周知のとおりであり、先月岡崎市において甚大な被害をもたらしたのも「記録的な豪雨」が原因でありました。被害は、愛知県だけでも、8月31日現在、床上浸水2,141戸、床下浸水9,226戸、死者2名。県内の農林水産物被害は11市町で4億8千万円であり、報告があれば更に増える、としています。鉄道はJR東海と名鉄、近鉄が一部で運休や運転を見合わせた、という発表がありました。経済損失は甚大であると言えます。今年の夏に入ってからゲリラ的な豪雨が続いています。1時間あたり雨量が29道府県45箇所において記録を更新するという事態になっています。気象庁によれば7月下旬から8月にかけて、各地を襲った急な大雨は、30を超える気温の上昇に伴い、大気の状態が不安定になり、積乱雲が所々で発達して大雨を降らせた。今回の大雨は日本の南海上から非常に暖かく湿った空気が流れ込み、次々と積乱雲が発達し、長時間にわたって関東や東海地方の同じ地域を通過して大雨をもたらした、とのこと。この豪雨は、何らかの影響でジェット気流（偏西風）が蛇行したためともいわれています。その影響でしょうか、今年8月には台風は一つも日本に上陸していません。こうした地球温暖化による影響は、気象や自然環境への影響と、社会や経済への影響とに大別され、日本において起こりうる現象の予測も進められています。今年の5月にその一部が公表され、洪水の被害額が毎年1兆円増加、生物環境や農業、漁業への影響も大きいなどの予測があり、また、地球温暖化の影響は、健康にも及ぶとされ、大気汚染による被害、猛暑や大気汚染などによるスト

レス障害、感染症の範囲拡大などが危惧されています。

豊田市においては、こうした状況の中で、「地球温暖化防止計画」や現在改定中の「環境基本計画」があるものの実際に温暖化による様々な影響に対して、どのような「行動計画」「危機管理体制」が敷かれているのかを伺っていきます。

中項目1点目、クリーンエネルギーなどの普及について伺います。

こうした地球温暖化に対応していくためにはクリーンエネルギーなどの普及がその第一歩であり、急務であると考えます。豊田市においては、「地球温暖化防止計画」を策定し、実施中ではありますが、その中で特にクリーンエネルギーと呼ばれる、太陽光、太陽熱、水力、風力、地熱、天然ガス、
または、リサイクルエネルギーや燃料電池、コージェネレーションなどの普及促進について伺います。また、運輸部門について、二酸化炭素削減を行うための方策についても伺ってきたいと思

います。
小項目一つ目 補助事業について伺います。

まずは、豊田市がすでに行っている、補助事業についてですが、先ほどからも言うように地球温暖化はすでに始まっており、その対策が急務なのですが、豊田市が行っている補助事業の予算に対する執行状況について伺います。

小項目二つ目 その他の新エネルギーの普及促進について伺います。

いわゆる新エネルギーについて、マイクロ水力発電や風力発電、燃料電池などの普及促進策について伺います。

小項目三つ目 グリーン電力証書の普及促進策について伺います。

(グリーン電力証書というのは、新エネルギーで作った電力(グリーン電力)を証書化したもので、「証書」を買うと記載されたグリーン電力を直接購入したとみなされる、というものです。環境

に配慮していることをアピールできるため企業の購入が多いと聞いています。) この効果に着目し、愛知県でも既に導入することを決めています。豊田市における現状と、今後はどのように普及させていくのかお伺いします。

小項目四つ目 運輸部門における補助制度について伺います。

フードマイレージとは、消費地近くで生産された食糧を食べれば、輸送の際に交通機関が排出する二酸化炭素の排出量を極力抑えることができます。それを数値化したものです。見方を変えるとそれが、地産地消の考え方となります。つまり運輸部門の二酸化炭素を減らそうと思えば、日本各地域で地産地消を推進すればよいこととなります。しかし、これは簡単にはいかない。すでに国民の食生活そのものが変わっているのですから、努力する必要はありますが、一朝一夕には成果は上がらない。世間では、ガソリン価格が大きく値上がりしたために、車での移動を控え自転車や公共交通に乗り換えた人がいて、ガソリンの売上が落ちたそうであるが、これは二酸化炭素排出量を抑えたことになり、人間社会では困ったことも、地球環境としては大変いいことであったという、皮肉な一面もあります。こうしたことを考えると、ガソリン価格の高騰も見方を変えると大変良いこととも言えます。しかし、ガソリンの高騰を待っているわけにもいきません。そこで、運輸部門としては豊田市でも行なっている低公害車促進事業補助について更なる推進を行わなければならないと考えます。また、市民が手軽にできるエコドライブを推奨すべく、アイドリングストップ機能付車両への補助を行なうことも必要であると考えますがいかがですか。

つづいて中項目2点目、ゴミ処理とリサイクルについてお伺いします。

豊田市における地球温暖化防止行動計画によれば、二酸化炭素削減量は**39万5千トン**ということになっています。削減要因の一つに「ゴミの減量」が考えられます。以前からゴミの減量は言われていますが、目標となる数値が示されると市民の行動もより具体的になり、より協力が得ら

れやすくなると思います。

そこで一つ目 ゴミ処理の現状について伺います。

まずは、ゴミの現状についてうかがいます。特にフードマイレージの考え方からすれば、なるべく食材を有効に使うことが大切で、そうすれば生ゴミの量もフードマイレージも自ずと減ってくと考えます。そこで、現在のゴミの排出量について伺います。現状はどのようになっていますか。

二つ目 3Rの現状について伺います。

豊田市の3R（リデュース、リユース、リサイクル）についてですが、豊田市では、「まずゴミをつくらないこと（リデュース）」を第一としていますが、例えば、てんぷら油をリサイクルして廃食油で石鹼を作るよりもてんぷら油として使い切ったほうが二酸化炭素の削減になることをPRしていくなど、の方法が考えられますが、豊田市ではゴミの減量についてどのような施策を行なっていますか。

具体的に、そうすると一人当たり何グラム減らせればよいことになりますか。

中項目 3点目 健康被害対策について伺います。

地球温暖化による影響は、人体にも及びます。激しい気象や気候変動による（豪雨や猛暑などによる）物理的な被害や人的な被害も起こります。気温上昇による熱ストレス死亡リスクの増大、これはヨーロッパにおいて**1971年**、**2003年**、**2007年**、熱波による死亡者が増えたことなどでもわかると思います。また、大気汚染と、大気汚染によって引き起こされる光化学スモッグなどもあり、また、温暖化により今までは冬を越せなかった外来生物が日本でも越冬できるようになって、あらたな病害虫の被害が出てくる可能性があります。

小項目一つ目、光化学スモッグについて伺います。

豊田市において、毎年、光化学スモッグ注意報などが発令されていますが、その状況を伺いま

す。

年々増えていると思われませんが、その状況を確認する。対策としてどのように周知しているか。特に市民に対する周知が問題である。

二つ目、紫外線対策について伺います。

オゾン層の破壊によって増加する有害な紫外線は、皮膚がんや白内障といった病気の発症や免疫力の低下など、人体に影響を及ぼすとされています。オーストラリアでは、昔から紫外線対策にのりだしており、**1980**年代に始まった「サン・スマート」プログラムでは、子どもたちに「長袖のシャツを着よう」「日焼け止めクリームをぬろう」「帽子をかぶろう」と呼びかけています。また、学校では「帽子をかぶらない子は外で遊んではいけない」と指導しているそうですが、豊田市における紫外線対策はどのように行われていますか。

三つ目、感染症対策について伺います。

地球温暖化により地球規模で平均気温が上昇し、これまで熱帯地方でしか見られなかった感染症が、世界に広がる恐れが出てきた、といわれています。すでにアメリカ南部で、アフリカなどで発症することが多かったデング熱、西ナイル熱などに感染する人が出たことは、報道されていましたし、日本でもそれは例外ではありません。さきに豪雨にみまわれた岡崎市でもコレラ等を予防するために消毒液が配布されました。気候変動による降水量の増加でネズミから感染する「ハンタウイルス肺症候群」、蚊が媒介する「リフトバレー熱」といった感染症の増加が危惧されています。これは感染症ではありませんが、日本でも**1995**年に見つかった、「セアカゴケグモ」は本来は亜熱帯に生息していたものが日本でも冬を越せるようになり、現在も急増中といわれています。このクモは毒性が強く、噛まれると発熱し、場合によっては死亡するケースも報告されています。このような今までになかった感染症などに対して今後どのように対応していきますか。

四つ目、熱中症対策について伺います。

報道によれば、「猛暑となった今年の夏、7月に熱中症で救急搬送された人は、昨年と比べ**3.5倍**の**12,747**人に上り、救急搬送全体に占める割合も昨年と比べて**2.2**ポイント増え**3.1%**になった。このうち**33**人が病院に搬送後、死亡が確認された。」最多は、愛知の**1,084**人だったそうです。豊田市の現状と対策を伺います。

中項目 **4** 点目、農作物への影響対策について伺います。

地球温暖化によって生物環境や農業、漁業への影響も大きい、といただきましたが、環境省の報告によれば、コメの品質低下や苗の移植日を変更せざるを得ない、あるいは地域によっては、田や稲からの水の蒸発発散量が現在よりも**20%**増加して、潜在的な水不足になる恐れがある。また、りんごや温州みかんなどの生産適地が変わるなどとし、ヨーロッパではすでにワインに適するぶどうの生産適地が変わりつつあるという報道も聞かれます。冷涼な気候を好む野菜や豊田市では特に鉢物のシンビジウムなどは、栽培管理の技術を温暖化にあわせて変更していかなければならない、としています。こうした状況の中で、温暖化によって影響が出る農産物はどのように対応していくのか。また、農業全般において病気被害の増大、害虫被害の増大が懸念されるが、どのように対応していくのか。

中項目 **5** 点目、将来への対応について伺います。

平成**12**年の東海豪雨から**8**年、東海豪雨は、**100**年に一度の豪雨だったといわれましたが、先月末の岡崎市において甚大な被害をもたらした豪雨は、時間当たり**147**mmという猛烈な雨でした。気象庁でも「恐怖を感じるほどの雨」という表現でした。局地的、ゲリラ的な雨ではありましたが、**100**年に一度といわれるような雨が**10**年と経たないうちに二度起こっています。地球温暖化によって、このようなゲリラ的な雨が頻発すると心配されます。今までの防災対策や体制は、**10**年に一度、**50**年に一度といわれる降雨に対してのものであると思われませんが、今後こうした事態

が頻発すれば必ずと対策や体制も変わってくるはずです。岡崎市では、事前に対策をとっていれば防げたかもしれない事故が、今回の豪雨によって起こってしまいました。また、逆に豊田市では、

平成 12 年の東海豪雨の経験から冠水場所などがわかっており、迅速に対応ができた、という声も聞いています。今後の豊田市の対策について伺います。

小項目一つ目、防災対策などの見直しについて伺います。

豊田市の防災対策では、今回のような豪雨を想定して策定がなされているのか。また、河川の雨量計が今回欠測状態となってしまう、肝心のところで用を成しませんでした。そうした場合の対応はどのようになされたのか。あるいは、神戸で起こった鉄砲水による被害は、豊田市においても同様の被害があったわけですが、中山間地における鉄砲水の危険度は増してくると思われま

す。このように河川の急な増水、豪雨などによる土砂災害の危険は今後増えると思われま

すが、その対策について伺います。

小項目二つ目、危機管理体制の構築について伺います。

地球温暖化によって、自然環境や気候変動の兆しが見えはじめています。手遅れとならないうちに対策を講じなければなりません。私は、豊田市における自然災害などへの対応をはじめ、化学薬品による汚染、感染症拡大への対応、ゴミ量増加の問題、危険箇所への対応など総合的な危機管理体制、あるいは市長直属の総合的な危機管理室を設置していくべきだと考えます。豊田市の

お考えをお聞きします。